

編集長インタビュー

早稲田大学スポーツ科学学術院 教授

武藤泰明さん



『令和』時代の人材ビジネス業界には、
今後の職業能力開発の担い手となり、
日本国の生産性向上に寄与してほしい」

人材ビジネスの経営にも欠かせない労働市場のトレンド・未来予測の羅針盤としても好評な、本誌連載記事の「経営者目線で読む景気動向」。その著者としても馴染みの早稲田大学スポーツ科学学術院教授の武藤泰明さん。人材ビジネス業界における知恵袋、良きアドバイザーとしても多くの提言、助言をされてきた武藤さんに、新たな元号「令和」を迎えるこのタイミングで、人材ビジネスにおける「平成の30年」、そして「令和」時代に期待される人材ビジネスの役割などを聞いてみたい。（インタビュー・構成 伊藤秀範）

むとう・やすあき
1955年生まれ。1980年に東京大学大学院修士課程を修了し、三菱総合研究所入社。同社主席研究員を経て2006年より早稲田大学スポーツ科学学術院教授。NPO法人日本ファイナンシャル・プランナーズ協会理事、独立行政法人鉄道・運輸機構特別顧問なども務める。専門はマネジメント。著書は『ビジュアル経営の基本』（日本経済新聞出版社）、『プロスポーツクラブのマネジメント』（東洋経済新報社）、『人手不足時代の人事戦略』（日本能率協会マネジメントセンター）『未来予測の技法』（PHP研究所）など多数。

「令和」におけるさまざまな解釈

菅義偉官房長官は4月1日の午前、首相官邸で記者会見し、「平成」に代わる新しい元号は「令和」と発表した。この新しい元号「令和」の発表に沸いた一日について、武藤さんはどのように感じたのか？まずはそのから聞いてみたい。

「一番面白いと思ったのは、令和という新しい元号の解釈について、人によって言うことが違っていったこと。つまり、その元号に含まれている意味は一つではなく、『多様であった』ということだと思います。

実際、11時30分過ぎに官房長官が新元号を発表、その後首相が談話を発表しても、それを解釈の統一見解だと思った人はあまりいなかったようで、メディアにおいても国文学者らによって新しい元号の持つ意味についてさまざまな解釈が示されていました。

これに困惑したのが海外のメディアです。一部の外国メディアは「令」の意味を、命令や秩序などを意味するなど誤って報じました。それによって、正しい意味を伝える必要があると判断した外務省は、統一の解釈を発表したという流れのようです。

そうした一連の動向を見ていて感じたのは、いわゆる西洋文明では当たり前だと思われている『論理』『一つの定義』という考え方のす

れ違い、日本人のメンタリティーというものの表れです。

一般的に解釈が多様になるものというのは、芸術作品です。

例えば絵画や文学などの芸術作品に触れたとき、その受け止め方は人によって違います。今回の『令和』の解釈における多義性、多様性というのは、それと似ています。

元号というものは論理、科学では説明できない、むしろそれらを超えた上部構造の中に存在しているものであることを、今回、再認識させられたと感じています」

「日本という国の面白さ」を再認識

外務省は、新しい元号「令和」の意味について、英語で「Beautiful harmony＝美しい調和」と説明すると決めた。その「美しい調和」の解釈について、武藤さんは「芸術的である」とも「日本的である」と感じたといい、「令和」という新元号から、聖徳太子が制定した十七条憲法の第一条に出てくる「和を以て貴しとなす」を連想した人も少なくなかったと思われる。

「この『美しい調和』には、『和を以て貴しとなす』の意味も含まれているようです。つまり、美しい調和そのものが『目的』であると言っています。

この捉え方が日本的らしいといいますが、西欧とは大きく異なる場所です。西欧文明においては人間同士がお互いに仲よく調和していく、というのはある目的のための手段にはなっても、目的そのものにはならない。そう考えられています。

しかし、日本の『和』というのは、それ自体が目的であるわけです。面白い国です。『令和』という元号を通じて、日本という国の面白さというものが、再認識できるのでしょうか」

元号というのは「芸術」である

日本に現存する和歌集の『万葉集』。新元号の「令和」の発表以来、その出典が掲載されている万葉集の関連本の売れ行きが好調であるという。武藤さんも、美しい調和、そして多様性という目的が、『万葉集』を典籍としていることでより色濃く反映されていると感じている。

『万葉集』の面白いところは、詠み人の多様性。そこに採録されている歌の中には、詠み人知らずの歌などもあるところだ。

誰が詠んだのかが分からない歌。もちろん政治的な理由で詠み人知らずになっているものもあるらしいのですが、詠み人の中には防人（さきもり）もいます。つまり貴賤を問わない、階層や階級社会を何も反映していない。

「日本の『和』というのは、それ自体が目的です。『令和』という元号を通じて、日本という国の面白さを再認識しています」